



T.O Entertainment

平成 17 年 9 月 29 日

各 位

会 社 名 株式会社ティー・オーエンタテインメント

代表者名 代表取締役 本田武市

問合せ先 常務取締役 柴田維

(TEL . 0 3 - 3 2 5 7 - 5 2 1 2)

著作権信託への合意に関する本意 業界活性化の針路試案

文責・沖方丁

このたび『マルドゥック・ヴェロシティ』の著作権をジャパンデジタルコンテンツ信託株式会社（以下 J D C T）に信託することで合意に達しました。今後、J D C T との契約進行とともに、株式会社ティー・オーエンタテインメントが沖方丁の代理人として当著作のオールライセンスを管理運営する方針です。

つきましては、今回この著作権信託への合意に踏み切った本意を、企業および読者・視聴者の皆様へお伝えさせて頂きたいと思い、こうして掲載スペースを借りさせて頂きました。

まず著作権信託への合意において最も期待していることは、著作権を担保とした融資そのものではありません。むしろそれを可能とするスキーム、すなわち著作に関する諸権利の一元化を、コンテンツ業界の活性化の端緒にするという試みにあります。

その活性化の算段は、以下の三点を主眼としております。

第一に原著作物に関する諸権利の窓口を一元化することで、複数の企業の参加を容易にし、あらゆるメディア展開の可能性を広げること。

第二に原著作物を対象とした資本投資を秩序立てることで、あらゆる企業・個人投資家を対象とした、幅広い資金導入の可能性を広げること。

第三に原著作物を原作としたコンテンツの展開に伴い、人材交流・人材育成を活発化し、コンテンツの企画・制作にとどまらず、流通・販売・営業・広告といった業界を支える業態においても、おのおのの業界に適した、これからの新しい時代に有効なマネジメントの方法を模索すること。

加えて、これらの試みによって、ある程度コントロールが可能な、小規模の新業界を創出し、それが既存のあらゆる業界の橋渡しを担うことで、相互の活性化を実現したいと考えて

おります。

またこれらは同時に、海外戦略を遠望したものでなければならぬと考えます。

これまで日本のコンテンツは、海外の企業によって安く買われ、高く売られるといった状況に甘んじる傾向があり、ひいてはそれが海外の魅力を高め、日本の人材が海外へ流出する根拠となる傾向がありました。しかし諸権利が一元化することで日本の企業・人材・投資家が一丸となる契機を得て、海外との対等もしくはより有利な契約を実現し、国内のコンテンツ産業の魅力を高め、やがてむしろ海外から優秀な人材を多く国内に招く端緒とすることで、日本のコンテンツ産業を活性化させることを、将来の企図としております。

最後に、この著作権信託が、これまでの出版社と作家の権利の在り方を否定するものではないことを、強く主張させて頂きたいと思っております。

確かに、これまで出版社と作家が著作権を共有するような状態にあることが通例でした。しかし各出版社が、全ての原著作物を管理し、なおかつ全てのメディア展開に伴う諸契約をマネジメントするには、もはや作家と作品の数が多すぎるという困難があると考えます。

膨大な数の権利調整が錯綜することで原著作物の扱いに混乱が生じ、契約時の機動性が失われ、ビジネスチャンスを逃し、ひいては諸々の制作現場に混乱をもたらすことで、国内コンテンツ産業の魅力を低下させる遠因ともなることがありました。

そうした困難を速やかに解消し、出版社と作家と多くの企業を同時に活性化させ、新たな時代を創出するためには、まず何より原著作物に関する諸権利を一元化する試みが、有効であるとの考えに至った次第です。

全ての出版社の方々へ。全てのコンテンツ業界の方々へ。そして読者・視聴者の皆様方へ。

今後、真に業界活性化をはかるためには、この著作権委託をはじめとして、他にも多くの試みをはかるとともに、様々な困難に立ち向かってゆかねばなりません。

なにとぞ皆様からの御理解と御協力が得られるよう、鋭意努力してゆきます次第です。

2005.09.28 沖方丁拝

【本件に関するお問い合わせ】

企画一部 小山

Tel 03-3257-5212

Fax 03-3257-5213

info@toenta.co.jp

<http://www.toenta.co.jp>